

## 「暮らしの質」向上検討会（第2回） 議事要旨

1. 日 時：平成26年12月22日（月） 9:45～11:30
2. 場 所：合同庁舎8号館8階特別大会議室
3. 出席者：
  - 委員（50音順）  
赤池委員、有川委員、石田委員、沖委員、門倉委員、西郷委員、嶋津委員、白土委員、藺田委員、高島（宏）委員、高島（郁）委員、光畑委員、宮原委員、やました委員、横山委員
  - すべての女性が輝く社会づくり推進室等  
有村女性活躍担当大臣、赤澤副大臣、阪本室長代理、華房次長、岡本次長、久保田次長、伊藤次長、向井次長、別府次長、小野田次長、刀禰内閣審議官、小八木参事官、中山参事官、田中参事官、井上参事官
4. 議事次第
  - （1） 開会
  - （2） 有村大臣、赤澤副大臣挨拶
  - （3） 委員自己紹介（嶋津委員）
  - （4） 提案募集の結果について
  - （5） 今後の検討の進め方について
  - （6） 閉会
5. 議事の経過
  - （1） 開会  
宮原座長の司会により、開会。
  - （2） 有村女性活躍担当大臣、赤澤副大臣挨拶  
内閣官房では、インターネットを通じて国民の皆様から暮らしの質を高めるための御提案を頂戴した。4,000件を超えるアイデアが国民の皆さんから寄せられたこと、また、関心を持っていただいたことに敬意と感謝を申し上げる。国民生活の未来に資するアイデアを実際に具現化していく、積極的な議論をいただきたい。  
後半は、今後の検討の進め方についても御審議をいただく。日々の暮らしを

穏やかに、また心豊かに、世界に誇れる日本の暮らし方ということをアピールしていくためにも、議論を将来に生かして、行政が国民生活の未来に生きる手を打ってこそと思っている。議論が楽しく、どんどん拡張しながらも、行政的にはどう収斂して具体的なアクションにまで昇華していくかということを中心に考えながらやっていきたい。

#### ○赤澤副大臣

すべての女性が輝く社会づくりというのが安倍政権の本当に一丁目一番地、非常に重要な政策である。女性が活躍しやすい環境をつくることで、女性の暮らしの質を高めていくことは不可欠の課題である。併せて、それをうまく実現できれば男性にとっても、社会全体で生活の質が高まるということで、本当に重要な課題だと認識をしている。大臣も大変思い入れの強い会であると承知しており、皆様から忌憚のない御意見を頂き、いい成果ができることを心待ちにしている。

#### (3) 委員自己紹介（嶋津委員）

続いて、前回御欠席の嶋津委員より、自己紹介を行った。

#### ○嶋津委員

育てる側が良くなると企業も社会も人も良くなるという思いから、あなたの下で働けて良かった全てのリーダーへという理念のもとに、リーダー教育を専門としている。普段は、社長、会社の上司の皆さん、親御さんに対して、いろいろアドバイスをさせていただいている。

会社員生活6年、独立して21年、会社の上場、そして海外生活を6年、離婚も経験し、そして再婚も経験しということで、ある意味、女性を味方にしながら、あるときは女性を敵に回しながらやってきた人生である。

この場に対していろいろお話ができたかと考えている。

#### (4) 提案募集の結果について

事務局より、資料1に基づき、女性の「暮らしの質」を高めるための国民からの提案募集の結果を報告した。

#### ○小八木参事官

資料1に沿って御説明させていただく。

この提案募集は、先月の平成26年11月14日金曜日から12月16日火曜日までの期間で国民から提案を募ったところ。

「2. 募集方法」とあるが、以下のいずれかの方法で提案可能として募集したということで、株式会社サイバーエージェントが運営する国内最大のブログサービスのアメーバブログの中に特設サイト又は公式ブログにおける提案と、地方紙をはじめとする新聞、雑誌などにもファクス番号及びテーマを掲載の上、その後のファクスによる提案という2つの方法で、どちらでも提案していただけるという形で提案したところである。

テーマについては、3. にある通り、11月14日から「暮らしの『移動』をもっと気持ちよく」「『トイレ』をもっと気持ちよく」という空間についてのテーマで第1回目を募集した。

第2回目は11月21日から、「『あなたの町』をもっと暮らしやすく」「あったらうれしい公園」という形で募集した。

第3回が11月26日から、「『子育てしながら働く』ために」「『いっしょに育児』するために」というテーマで募集した。

第4回が、情報をとということで、12月3日から「必要としている人に、情報を届けるために」「女性に知ってほしい情報を届けるために」というテーマで募集した。2つ目の「女性に知ってほしい情報を届けるために」というのは、左側のテーマの補足というか、もうちょっと掘り下げて何かつかめないかという問題意識で聞いている。

それまでのテーマの提案などで、日本のいろいろな文化とか自分たちの持っていることに対する誇りみたいなものを感じたので、第5回は、12月10日から「世界に伝えたいもの」というテーマ、それから、フリーテーマということでオープンのテーマで行った。総件数で4,129件ということで、4,000件を超える提案をいただいた。

主な提案の中身について、時間の制約もあるので、簡単に御説明させていただく。

2ページ以降では、先ほど申し上げたように4,000件を超える提案があったので、全てを掲載するのは困難であるので、主な提案を掲げさせていただいている。主な提案といっても、ごく一部を抜粋したということではなく、類似の提案は適宜まとめさせていただいた。趣旨が同じ、主な内容が同じというのは適宜まとめさせていただいている。また、最終回のフリーテーマについては、内容に応じて、それぞれの各項目に分類、整理させていただいている。

以降は、時間も限られているので、小見出しと幾つかの提案を抜粋して御紹介するという形で進めさせていただきたい。

「1. 女性の暮らしやすさにつながる提案」として「(1)バリアフリー化の推進」ということで、例えば、電車の乗り換えなどでのエレベーターが完備されている、子連れや高齢者にとって移動がスムーズである、昇降用のエスカレー

ターを駅に設置して欲しい、そういったことでバリアフリー化が進むと、車椅子を使用している人だけではなくて、ベビーカーを押しているママさんにもみんなにもよいという声が上がっている。

(2)と(3)はベビーカーについてである。「(2)ベビーカーを利用しやすい電車等」ということで、ベビーカー、子連れ、盲導犬を連れた方の専用車両があってもよいのではないかという重要な御意見である。「(3)ベビーカーのレンタル」ということで、公共期間、施設等にベビーカーの無料レンタルがあるともっと気軽に外出できるのではないかというものである。

(4)とし、授乳室など、トイレも外出に際して迷わないようにマップがあると移動しやすいのではないかといった意見があった。

「2. その他の提案」というものは、その他もいろいろな提案を御紹介させていただきつくりになっている。

4ページの「B 『トイレ』をもっと気持ちよく」であるが、テーマが具体的であったため、いろいろな御提案をいただいた。

まず、「(1)待ち時間の少ないトイレ」ということで、女性用トイレの行列をなくしてほしい、施設によっては男性用トイレ等を臨時の女性用トイレとして活用している場合があり、こういうフレックスな形で、利用者の男女比に応じた形で工夫できないかという声がある。

「(2)子育て中でも利用しやすいトイレ」ということで、おむつ替えのスペース、台が据えつけられている場合もあり、なるべくこういうものを据えつけて欲しいという声がある。

④などでは、ベビーカーが入る個室があるのに、入り口が狭いためにベビーカーが通りにくいトイレがあるということで、こういったところに改善の余地があるという提案である。

「(3)安全なトイレ」であるが、女性用トイレの入り口に防犯カメラを設置してはどうか、防犯用や呼び出し用のブザーがあれば安心できるといった提案である。トイレの照明は明るくしてもらったほうがいいのではないかという声が上がっている。

「(5)快適なトイレ」であるが、⑥あたりから、何ととっても清潔が一番だとか、そのような声がある。清潔さについては、言葉を変えて色々な形で、床の清潔さ、あるいは便座の清潔さなどいろいろな声が上がっている。

⑧で個室内に荷物をかけるフックを増やして欲しい、⑩で水が流れる音を出す機能、擬音機能、こういったものがあるとありがたいという声が上がっている。

「(5)快適なトイレ」の中にも入るが、「(6)清潔なトイレ」ということをここで特出しして掲げている。

「(7)清潔さ、快適さを保つ工夫」、これは個々人が御利用するものであり、マナーを大切にということである。マナーはなかなか守っていただくのが難しい面もあるが、②のところで、きれいにお使いくださいと書いているよりも、いつもきれいにお使いいただきありがとうございますと書かれるほうが印象は良いという提案があった。

「(8)清潔さ・快適さを増す工夫」として、これは結構数があったが、和式、洋式の比率、お年寄りや和式がなかなか使いにくいのではないかと、電車内のトイレでも洋式のほうが便利だ、足の不自由な方にとって和式は完全に使用不可能、そういった声が上がっている。一方で、清潔さのために和式を残して欲しいと心情的なことを吐露しておられる方も④あたりでいるので、それは掲げさせていただいた。

7ページ、「C 『あなたの町』をもっと暮らしやすく」で、最初の「(1)子育てへの支援」としては、子供の送り迎えを代行してもらえようサービスがあるとうれしいなといった声が上がっている。

町というところを「(2)地域コミュニティ」、こういったものを新たに組み立てていけない、もっと充実させていけない、そういった核に図書館とか公園を活用できないかといった声が上がっていた。

8ページ、「D あったらうれしい公園」ということで、安全・安心といった2つのことについて、都市部の公園以外は暗く、トイレが汚いとか、ただの危ない空間になってしまっているといった声があった。

設備としては、夜も明るいよう十分な街灯を設けて欲しいという声があった。

「2. その他の提案」のところに、無視できない数があったので掲げているが、「(1)便利で使いやすい公園」として、こんな設備があるといいなというのが結構あった。自動販売機とかがあったらいい、公園の機能として、「(2)遊べる公園」を求める声、「(3)ゆっくりできる公園」と、公園の機能については大きく分けて2つの声があった。

11ページ、「E 『子育てしながら』働くために」で「(1)多様な働き方、休暇制度」ということで、子育てしながらのフルタイム勤務では急な残業も難しいということ、多様な働き方をしたいということ、短時間勤務ですとか在宅勤務とか、そういう声があった。

「(2)子育て・保育の助け合い」ということで、例えば同時期に出産した方が集まって、保育士とも連携しつつ、ローテーションで子供を見るような仕組みがあればよいということ、地域の共同体づくりにもなるのではないかと、先ほどの地域コミュニティみたいなことともつながるような声があった。子育て・保育の助け合いについてもいろいろなタイプの声が上がっており、幾つかの種類をざっと掲げている。

12ページでは「(3)子育てに対する理解」として、③のところにあるように、企業は、妊娠したら戦力にしないといったことはやめるべきという、マタニティー・ハラスメントについての声が上がっている。

⑥で、子育ては夫のサポートが重要ということである。

「(4)才能を埋もれさせない」ということで、才能があるのにもったいない人もいるという声、あるいは②で、埋もれてしまっている女性の高い能力を発掘するのが企業側のすべきことであって、才能を生かしたい、働きたいと思う母親は、自分のスキルを企業にアピールすることといったような声も上がっている。

関連して、13ページで「F 『いっしょに育児』するために」ということで、ここでは「(1)夫の働き方」である。一緒にということ、地域とか周りと一緒にという投げかけをしたが、何ととっても多かったのは夫ということにして、もっと男性の仕事量とか負担を減らすべきだという声、あるいは、御自分が育休をとるという男性であるが、子供と一緒に過ごす時間が増えたら、きっと子供が真っすぐに育つ環境もつくりやすいのではないかというお声が上がっている。

関連して(2)であるが、男が育休の取得をしたいと申し出ることが難しい雰囲気の問題にあるという声が上がっている。

14ページ、情報である。「G 必要としている人に、情報を届けるために」ということで、どういった媒体を使うと良いのか、どのような手段を使うと良いのかに関して、である。

「(1)テレビやラジオ、新聞等を活用した情報提供」ということで、テレビやラジオのコマーシャルで、消費生活相談先とかDV被害者の駆け込み先を案内してはどうか、その際は、最後に電話番号を長目に映し出してほしいという声である。あるいは、別の媒体で「(2)インターネットを活用した情報提供」ということで、全国の公的な支援をまとめているサイトがあればいいと思うというような、何かまとまったものが欲しいという声である。

場所として「(3)コンビニ等、地域に密着した情報提供」ということで、スーパーやコンビニ、郵便局、銀行、病院といった、普段訪れる場所で情報を発信してはどうかという声、あるいは③、都市部と地方とでこういう状況は違うと思うが、地方の集落等においては、新聞配達員、郵便配達員、民生委員、介護士、福祉団体、宅配便の配達員などに情報提供を担ってもらうのはどうかという意見もあった。

15ページ、「(6)効果的な情報の伝え方」ということで、文章は短く、かつ、写真や図、イラスト等を利用するのが効果的だと思うということで、視覚的に訴えるような情報の提供の仕方がいいのではないかという声であった。

17ページ、「H 女性に知ってほしい情報を届けるために」ということで、これは先ほどの情報の補足のよな形で聞いているが、どういったところに情報があると女性に届きやすいのかということで、「(1)雑誌、商品等を活用した情報提供」ということで、①で、生理用品等女性が使用する日用雑貨に広告を掲載するとよいという声や、あるいは②で、そういった商品、生理用品とか化粧品など女性が購入する商品とともにレジなどで一緒に渡すという声、あるいは④、食品スーパーの袋詰め台に情報を張りつけた無料頒布品を置いたりすると良いのではないかとといった声が上がっている。

「(2)女性が多く集まる場所における情報提供」ということで、①で、随分以前から女性用トイレには、DVで悩んでいる方の駆け込み連絡先の名刺サイズのもの置いてあるのはよく見かけるということで、取りやすく、しまいやすくてすばらしいアイデアである。DV相手の男と一緒にいるときでも女性用トイレには入ってこないで、この1枚の小さな紙が、困って悩んでいる人には助けを求める大きなきっかけになるといった声があった。

そのほかにも、女性専用車両とか、あるいはティッシュとか、そういったものを使った情報提供はあり得るのではないかと声があった。

18ページ、「(3)通信機器等を利用した情報提供」ということで、生活用品のパッケージなどに、知ってほしい情報にアクセスできるアドレスとかQRコードなどの情報を載せたら良いのではないかと提案がある。

19ページで「I 世界に伝えたいもの」ということで、日本のこういったものを世界に伝えていきたいのかということ聞いたところ、1つは「(1)文化、精神」ということで、例えばおもてなしの精神とか思いやり、誠実さ、優しさ、心遣い、公共の場所を使ったらきれいにする文化ですとかトイレのきれいさというのも出てきた。時間・ルールを守る文化ということも出てきている。

「(2)製品、コンテンツ」ということで、温水洗浄便座、あるいは自動販売機、こたつ、工芸品、日本のおいしい食品、おにぎりといったものである。音楽、アニメ、ゲームといったものが挙がっている。

「(3)平和、治安」といったものが誇りなので伝えていきたいということ、「(4)景観等」ということで、四季折々の日本の景色とか富士山、京都、神社仏閣、年中行事、屋台、こういったものを伝えていきたいという声が上がっている。

小見出しは、資料1に目次で並んでいる。今後の議論で、これは一つのキーワードになる。この後のテーマの議論とかをする際に御参考にさせていただきたい。

続いて、報告内容に対し、質疑応答を行った。主な委員からの質問等は次の通り。

### ○白土委員

2点確認させて頂きたい。紹介のあった生活者の声はインターネットとファクスで募集をしたということだが、媒体別の回答数内訳は何パーセントか。年代別の内訳は何%か。さらに年代別にフィードバックに違いがあったのかを知りたい。検討会のタイトルでは「すべての女性」となっているので、対象次第では調査手法が偏り過ぎていなかったかということが気になった。

また、提案募集の結果の中には制度改革に関する提案も結構出てきていたので、本検討委員会の趣旨と目的について再確認しておきたい。制度に関連する話は、すでに内閣府男女共同参画局によって進められていると思う。その上で新たに立ち上げられた検討会の目的は、「ソフトとハードにおける女性の社会的なアクセシビリティとユーザビリティを上げることによって、よりスムーズな社会参画を促す。」という視点から、さらに議論を深める場と理解している。

### ○小八木参事官

ネットとファクスの内訳については、ネットのほうが圧倒的に多かった。ファクスは、地方紙などに結構ファクス番号とかを掲載しておったものの、ファクスでの御回答は10件以下ぐらいであったと聞いている。ここに挙がっているもの4,129件、これはほとんどネットからの御提案ということである。

制度の話であるが、今回のプロジェクトの一つの位置付けとして、参考配付している政策パッケージというものがある。政策パッケージにおいて、いろいろな状況に置かれた女性についての施策を、男女局も掲げている。このQOLに関しては、以下の施策を進めるとともに、すべての女性が輝くためには女性の暮らしの質を高めることが重要であるということで、政策パッケージで、制度、例えば労働時間法制などを書いている。そういったところは政策パッケージのほうでブラッシュアップしていくという流れが一つある。それと並立して、暮らしの質というものを高めていこうとしている。これは当然相互に関連し、効果を生むのは一人一人の女性に対して効果を生んでいくということであるから、当然関連はするが、理念的に、概念的に2つに分けるとすると、政策パッケージで既にあるものとは並立してこの検討を進めていくという位置付けになるかと考える。

意見をくれた方の年代別調査で、年齢については、年代、属性というのは特段とっていない。

○赤池委員

政策対象の確認であるが、今の資料の中で、例えば幼稚園、保育園、こども園とかをどうリノベーションとかイノベーションしていくのかというのはほとんどない。例えば子供たちに対する教育みたいなところも非常に内容が薄い。一番子育て弱者にとって重要な幼稚園、保育園をどう考えていくのか、子ども・子育て、教育をどう考えていくのか、そういう議論とか政策提言みたいなものも委員会のミッションとして進めていっていいのかどうかを確認したい。

○小八木参事官

これからの検討の課題について、ハード面、ソフト面の両方にわたるような、混合するような話である。これからの検討課題として今後やっていくことは十分あり得るかと思っている。

○やました委員

全ての提案に対して思うことだが、結局のところ、こうしてくれ、ああしてくれという希望である。当人の立場は全てが違うわけであるし、ああしてくれ、こうしてくれという提案に対して、この委員会というのは、それに一つ一つ応えていくのが目的ではないと理解してよいか。

○華房次長

そうである。

○やました委員

それを踏まえた上で、こちらとしてはどのような意図、意思を持って検討していった方がいいのかというのを改めて再確認したい。

○小八木参事官

その点は、またこの後の、テーマ別にどのように議論を進めていくのかとかかわるので、そこでまた御議論いただきたい。おっしゃるとおり一個一個の提案は4,000も膨大にあるので、それに一つ一つ応えていたら何年あっても足りない。先ほどの目次に掲げたように、ある程度、小見出しという形で共通項、類似項という形で抽出した。この後の議論になるが、テーマというのは関連性があるので、そのテーマの中で議論していく。テーマを立てながら、空間的な要素であるとか、あるいはソフト面のネットワーク、情報提供であるとか支え合いの要素、あるいは活動しやすくする工夫であるとか、そういったテーマで議論していくと、おのずと提案とも関連しながら議論を進めていけるのかなと考

えている。

#### ○西郷委員

女性が子育てをするというのと、働くということが昔からなかなか両立できない。働くことと子育てをすることが上手に行われていくことが大切で、そのためにどういうことをしていったらいいかということが大きなテーマであるのではないか。テーマに対しては、理念というものを大切に出していったほうがいいし、この委員会としてメッセージを出していくということが大事である。この委員会は政府の委員会であるから、政府としてそういうことをメッセージで出していくということがあると思う。

メッセージとともに、具体的な内容がある。具体的な話というのは現実の課題として、多様なわけであるから、少しポイントを絞ってやっていこうということで、小さなプロジェクトを幾つか起こしていくということが大切である。大きなメッセージと小さなプロジェクトと両方が上手に展開していくということを提案していくのがこの会ではないかと思う。小さなプロジェクトを起こしていくときに今回のこの話は大変参考になるし、皆様が持っているノウハウというのは非常に役立つのではないかと思う。

#### ○嶋津委員

この場の議論の仕方として1つ聞きたいのだが、何か結論を出す場なのか。頂上に向かってみんなで話し合っただけで何か結論を出す場なのか、みんなで意見を放り込んで最終的な結論は国側で何か出すような議論の場なのか。

#### ○小八木参事官

この後の議論の進め方に入ったほうがよいのではないかと思うが、最終的に報告書のような形で取りまとめていく、何らかの成果に結びつけていくということを考えている。この後の成果の出し方を議論していただくものと思っている。

#### (5) 今後の検討の進め方について

宮原座長より、今後の本検討会における進め方について、資料2のとおり説明した。続いて、分科会で扱うテーマについて議論するにあたり、事務局から、資料3により分科会の開催について、資料4によりその具体的な内容について説明の後、質疑応答を行った。主な質疑は次の通り。

○高島（宏）委員

進め方についてのお願いである。分科会形式は1回だけ経験したことがあるが、経験したことがないと、どういう成果物に向けて頑張っていけば良いのイメージつかない。どのように行くのが良い分科会なのかというイメージを最初に持ちたい。分科会のクオリティを上げるためのゴール、コツを提示していただいた上で始めると良い。

もう一つ、進め方に関してのアイデアであるが、このチームが具体的に意味のあるアクションを出すのだということが重要ということであるので、分科会を設計した上で、それぞれの分科会ごとにKPI的なものを決めて、そのKPIを目指すというのがこのチームらしいのではないかと、提案させていただきたい。

○有村国務大臣

今の御指摘に大臣としてお答えをさせていただく。

基本的にはこの「暮らしの質」向上検討会が、私たちが持てる全てのノウハウの最終司令塔ということになる。4,000のコメントをどのようにするかということではなく、大事な国民の声を聞いた上で、私たちがどう動くか、基本的にはここが最終ブレーンだと思っていただきたい。

参考資料1のとおり、この検討会で言うだけで満足するわけではなく、関係省庁とどのように実現をしていくか。政府の会合なので、民間にこういう協力をいただきたいということは、横展開がしやすい。関係省庁、関係団体等、政府の中で動くところにつながってこそ、である。パッケージあるいはプレゼントを国民の未来にしていくのだという気概のもとにお話をいただきたい。

地方自治体ということでは全国の都道府県、知事会とも連携を必要であればやっていく。自治体の首長に御協力いただきたい、あるいは意見をもらいたいということも可能である。

例えば子ども・子育て支援新制度については専門の会議があるが、この検討会のような種類の会は今までなされたことがない。手探りの状況になるが、省庁の縦割りで、あるいは専門の会議で出てこないような総合的な感性というものを、どう私たちの日本の未来に生かすか。そういう意味での手探り感というもの、しんどさはあるかもしれないが、逆に言うとおもしろみもあるということが言えるかと思う。

新しい分野なので、予算をどう動かすかということも極めて大事だが、各省庁の予算、あるいは制度なりプレゼンテーションなりを動かしていくには、相当強いインパクトのあるアイデアや知恵でなければ、各省庁や自治体を動かすことはできない。インパクトのあるものをどう出していくかということも問われる。

費用対効果も見ていかなければいけない。在任中に結果を出していかなければいけない。

これから5年後、10年後、15年後を見据えてアイデアを出していくが、毎回毎回到区切りをつけていきたい。マスを動かせるようなアイデアを出していきたい。

3番のテーマについては、男女の働き方、長時間の働き方を変えていくというところも女性活躍の中では直視せずにはいられない項目である。長時間の働き方を変えていくために、漠としたソフト路線、アナログの路線でできることがあれば。また、デジタルでこういうことをやっていかなければということであれば、ほかの会議に投げかけることも行政で努力をしたい。

#### ○ 藺田委員

有村大臣の話、委員の話をいろいろ聞いていて、企業で、特に海外の経営者がストーリーのある経営を語っていくというところに使われている手法を結構生かせると思った。

例えば2020年はオリンピックということが一つのターニングとすれば、2020年にそれぞれがまずあるべき姿、こういうふうになりたいという姿を描いていくというのがビジョンである。様々な問題点があるが、表面的な問題と深層の部分、何が本当に大きな問題なのかをまずめぐり出すというもの。ここに出てきていないのは、価値観である。

女性の問題、さまざまな問題になっているところのベーシックには、やはり価値観が変わってきていない。特に戦後を支えきた重厚長大系の企業の、例えば幹部と話していても、何ら変わってきていないと感ずることがある。何が根本的な問題で、何を解決すべきなのかというところをまずきちんと押さえた上で、表面的なところも含めて、すぐにできるところ、どれが具体的に重要課題になっているのかというところをまず3つから多くても5つぐらいを洗い出し、それに対して各省庁が何をしていくのか、企業が何をしていくのか、個人が何をしていくか。重要課題と、それから、それをはかるものとして3つから5つぐらいのマテリアリティーをそれぞれ決めて、それを1年ごと、あるいは3年ごとに、あるいは2020年にはここまでやりましょうと、ちゃんと目標値をつくっていく。

この手法が結構企業では使われていますから、こういった手法を使いつつ、この女性が輝くための暮らしの質の中のストーリーとして、有村大臣がどこに行っても3分ぐらいで語れるように、聞いた人が誰でもすぐに理解できるものが、それぞれの分科会できちんとつくれると、成果としてやったというところと、それから、具体的にロードマップまで弾けるのではないかと。

#### ○赤池委員

参考資料1にある通り、一番重要なのは、3つあるスキームの中の民間にできることは民間にさせるべきということである。分科会の構成員は、例えば民間からのオブザーバーみたいなことを積極的に指名して開催すべきだと思うが、どのように理解すればよいか。

#### ○華房推進室次長

既に色々な関係するところにヒアリングしており、関連する業界団体、企業を呼び、一緒に議論していきながら、より良いものを目指していきたいと思っている。

#### ○白土委員

女性の社会参画推進については、既に政府が進めている様々な政策や法律があると思う。具体的な議論に入る前に、まずは最新の全体像を理解したい。概要をブリーフィングしてもらう場はあるか。

#### ○小八木参事官

分科会の進め方の中で、各省庁から、また企業から取り組みをヒアリングしつつめていく形が、より実りある具体的な議論に結びついていくものと考えている。

#### ○高島（宏）委員

第3分科会になるのかもしれないが、私自身はこの委員会に男性目線で参加したいと思っている。いかにウイン・ルーズの関係にならないか、女性が輝くことが男性や企業にとってどのようにプラスになるのかということを実体化していくことをテーマに入れていただきたい。

#### ○宮原座長

「上記に属さない事項」というところがあるので、第3分科会にそういったテーマを入れて、高島委員にも参加いただきたい。

#### ○西郷委員

町づくりをするときに、例えばアメリカでは、CDCというコミュニティー・ディベロップメント・コーポレーションというものを住民の人たちが組織をつくって実際に始めていく。

問題を解決していくときに、主体をつくってやっていくということが大切で、それは住民、女性が中心なるという仕組みがとても大切である。この主体を応援する仕組みができてくると、色々な動きが始まってくる。それこそ本当に小さなプロジェクトで良いと思うのです。それを応援する。誰が応援するかといえば、それは省庁とか企業とか自治体とかがあるが、最後はなにをやるかということがしっかり見えて、そこをどう応援するのかということが、一步踏み込んで展開できるといいのではないか。

今までのワークショップは、市町村がやることに対して意見を聞くというワークショップがほとんどであった。そうではなく、住民自身がリスクを負って主体としてやっていくためのワークショップに変わってきている。その観点が必要である。

質疑応答の後、宮原座長より、分科会の設置、開催及び検討テーマについて諮ったところ、異議なく了承された。

## (6) 閉会

赤澤副大臣より閉会の挨拶があった。

### ○赤澤副大臣

この分野は未開の分野である。女性の生活の質を正面から政府が取り上げて、全力でやろうというのも、ある意味本邦初である。KPIなども、端的に言えば確立されていない。障害者の方であれば、エレベーター、エスカレーターがどれぐらいついていないなど、ほぼでき上がっているものができていない。そういうものもつくりながらやっていく。大事な部分は、考え方、目的の部分である。第1分科会、ハード、トイレ、移動・交通機関は、我々が取り組んだことで、目に見えて便利になったねということをもってもらえるということが定性的に言えばポイントである。そこが魂であって、この会が取り組んだことでトイレが使いやすくなった、あるいは乗り物に乗りやすくなった、その声が上がることが非常に大事だと思う。

第2分科会はソフトの部分で、この会が取り組んだことで、欲しい情報がタイムリーに、必要な情報をもらえるようになった、そこが目に見えて良くなったというのが課題である。

ある意味一番大事だと思うが、本気で女性の生活の質に取り組み、そのことが社会全体の生活の質、男性にも良いものである、ウイン・ウインの関係につながるということを、我々がそう認識して取組を始めたのだ、これを大々的に政府が取り組んでいくのだと、今後相当長きにわたって成果が上がるまでやる

のだということ発信する意識改革をやるのが、第3分科会であろう。

それぞれ、ハード、ソフト、社会全体の意識改革ということで、大事な目的、魂の部分を押さえていただきたい。たとえば、和式のトイレは膝が痛いので困るという人もいれば、清潔感からいうと和式のトイレを整備してくれということになる。解決策は、個数にこだわるのではなくて、この行列の先には和式トイレがある、この行列の先には洋式トイレがあると案内をちゃんとやることかもしれない。目的として全員がトイレが使いやすくなった、欲しい情報がとりやすくなった、意識改革をよく理解したと、国としてこういうことに取り組んでいる、その大きな目的を目指して皆さんといろいろなことを議論しながら、徐々にはっきりした形ができていくというものだと思っている。

個々に御指摘のあった民間オブザーバーを加えるのは当然である。この検討会だけで全部は決められないので、各主体に自治体も含めてしっかり意見をとりに来てもらう。あわせて、各委員から要望があれば、行政当局もしっかりブリーフィングをやる。手間を惜しまずにしっかりやってもらいたい。

これからはかすると定性的な数値目標ができずにアンケートとかに頼りながら、この取組で良くなった、ということをやっていくかもしれないが、いずれにしても、とにかく未開の分野に、3つの目標、大きな定性的な目標を立てて、確実に評価される、国民から見て、女性から見て、良くなったねと言ってもらえるというところをとにかく押さえてやっていきたいという思いで進めていく。

以上